

講座現代文化・平成 29 年度

「美学の将来Ⅲ－2」

講師 金田 晋（美学者）

東亜大学大学院特任教授、広島大学名誉教授、蘭島閣美術館名誉館長、日本臨床美術学会顧問、
広島芸術学会初代会長、美学会元委員、日本現象学会元事務局長

期間 平成 29 年 5 月～平成 30 年 2 月（毎月 1 回／8、12 月は休講）計 8 回。

原則として第 3 木曜日 18:30～20:30

第 1 クール（5 月、6 月、7 月）／第 2 クール（9 月、10 月、11 月）／第 3 クール（1 月、2 月、）

講義レベル： 教養中級程度（初級の方も理解できるように工夫する。）

受講対象： 研究者、作家、学芸員、アート・マネージャー、大学院生、学生、市民等。

講義方法： 2 時間を 2 部に分け、前半部は講義、後半は演習形式で行う。

テキスト、資料等： 可能なかぎり前もって準備する。

【目的】

18 世紀フランス啓蒙主義の大御所ヴォルテールは、不朽の名作『カンディド』を遺すが、その最後に主人公カンディドは”il faut cultiver notre jardin.”の決別の辞を残して、世界を言葉で説明することから出られない師パングロスのもとを去ってゆく。「われらの庭を耕さなければならない。」

jardin（仏）も garden（英）も、「庭」とも訳すが、「畑」とも訳す。ヨーロッパでは庭＝畑である。大切なのは、notre（われらの、ぼくらの、私たちの）を jardin の上に冠せていることである。言語に保存されている普遍的な知恵や知識ではなく、自分が住む荒地を耕す agri-culture（農業）ことによって文化を創造する culture（文化、教養）、それが近代美術の出発点であった。

今年、ぼくらの住むこのヤポネシアとばれる弧状の列島で育かれた文化について、系統的に考えて見たい。

<第 1 クール>基礎編

「日本の美学」は成立するか。

第 1 講 知性と身体 知＝血

「漢字移植以前の<知>の世界－<ち>の現象学－」

第 2 講 旬と予感 未然の美 空間（力）から時間（流れ）へ

「非対称性の美学」、余白、季節感、「反り」と「むくり」

第 3 講 翻訳と解釈

「受容の美学」、額縁の暫定性、外と内の転換可能、「ルビンの壺」

<第2クール>応用編

テーマを論じる。

第4講 「花の美学」、自然と季節、暦

第5講 「隠喩の美学」

第6講 「日本刀と戦場」モノをコトに転換する

<第3クール>将来編

現代美学の諸問題を考える。

第7講 美意識と公共性（美術館で考えた）

第8講 辺境と中心（対馬で考えた）

《講師メモ》

広島は、「臨床美術」の拠点である。2年前には全国大会も開催された。それにならって、「臨床美学」があつてよい。李勝美術は、どこまでも「絵を描く、造形する」という現場に主眼を置く。臨床美学はどこまでも理論である。一つの現場での経験したことが、もう一つの現場で経験することの手引きとなる、そういう理論を目指している。それが本当の意味での「翻訳 translation」であり、言葉の生まれるところである。臨床美学は、そこを目指してゆきたい。

美学の将来Ⅲ－2 講座受講料

	一般	学生
全クール（8回）	25,000 円	19,800 円
第1クール基礎編（3回）	9,900 円	7,800 円
第2クール応用編（3回）	9,900 円	7,800 円
第3クール将来編（2回）	6,600 円	5,200 円

受講申込用紙

氏名		住所			
TEL		E-mail			
FAX					
受講クールに○を付けてください。		全クール	第1基礎編	第2応用編	第3将来編

お申し込みは、FAX・郵送・メールにてお願いいたします。

受講料は、初日に受付にてお支払いください。

ひろしま美術研究所 TEL 082-506-3060/FAX 082-506-3062

E-mail has@art-hiroshima.com